

西洋美術史ゼミ

第三回 ギリシア美術とローマ美術

発表者 あまずん

発表者について

あまずん

Twitter : @quii_w (メイン)

@amazuunsc (サブ)

理系の大学生 (数学専攻) をやっています。

近代以降の美術史や思想史、現代美術について興味があります。



前回の内容

- 原始美術

洞窟絵画など。呪術的な要素が強い。

- 古代メソポタミア美術

支配者階級の美術。彩色土器や浮彫など。

- エジプト美術

時代に応じて理想主義、写実主義、色彩主義が生まれる。そのご一神教のアマルナ美術が誕生。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY](#) のライセンスを許諾されています

本日の内容

- クレタ美術とミュケナイ美術（エーゲ海美術）
- ギリシア美術

以上の事柄について、時代背景→美術の順番で説明を行います。

予定していた「エトルリア美術とローマ美術」は尺の都合で次回に回します。時間が余れば軽く紹介しようと思います。

今回はかなり重いです。気張らずに聞いてください！

全体の概略

- 古代ギリシアでは、ポリスという都市国家が形成され、分立していた。彼らは時には対立することもあったが、同胞意識を持ち、人間性を重んじた。このような基盤があったため、ギリシア文化は**人間中心の現世的な文化**であった。
- ギリシア美術は**東方からの影響**を受けながら発展してゆき、様々な建築や彫刻が生まれた。
- 今回はギリシア美術を時系列順にみていきます。

本日の内容

- **当時の情勢について：エーゲ文明**
- クレタ美術とミュケナイ美術
- 当時の情勢について：古代ギリシア
- ギリシア美術
 1. 原幾何学様式/幾何学様式
 2. アルカイック美術
 3. クラシック時代
- 当時の情勢について：ヘレニズム期
 1. ヘレニズム時代

当時の情勢について：エーゲ文明（1）

- **エーゲ文明**はオリエント文明の影響を受けてBC2000~1200に興った青銅器文明。
- 前半(BC2000~1400)を**クレタ（ミノス）文明**、後半(1600~1200)を**ミュケナイ（ミケーネ）文明**という。
- クレタ文明は**海洋的、平和的**な文明であったが、ミュケナイ文明は**戦闘的、力感的**な文明で対照的である。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

当時の情勢について：エーゲ文明（2）

- **トロイア文明**（BC2600~1200）
- 小アジアのトロイアで栄えるが、前12世紀ごろに南下したアカイア人に滅ぼされた。
- トロイの木馬とトロイア戦争は古代ギリシアの詩人**ホメロス**の「**イリアス**」「**オデュッセイア**」に書かれている。
- 美術史ではそれほど重要ではないので触れません。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY](#) のライセンスを許諾されています

本日の内容

✓ 当時の情勢について：エーゲ文明

- **クレタ美術とミュケナイ美術**

- 当時の情勢について：古代ギリシア

- ギリシア美術

1. 原幾何学様式/幾何学様式

2. アルカイック美術

3. クラシック時代

- 当時の情勢について：ヘレニズム期

1. ヘレニズム時代

クレタ美術とミュケナイ美術（1）

- クレタ文明は初期、中期、後期に区分され、また前、古、新宮殿時代とも分けられる。
- **初期の終わりから中期にかけて**（BC2000前後）にクレタ美術は初めてその特質を明らかにし、それは“**動き（捻転）**”であった。
- “動き”はミノスの生活に根差したもので、**非オリエント的**であっただけでなく、**非ギリシア的**なものでもあった。



クレタ美術とミュケナイ美術（2）

- クレタ美術の最盛期は**新宮殿時代**（BC1700~1400）で、人間、動物、植物などを自由闊達に表す**自然主義**に特徴を持つ。



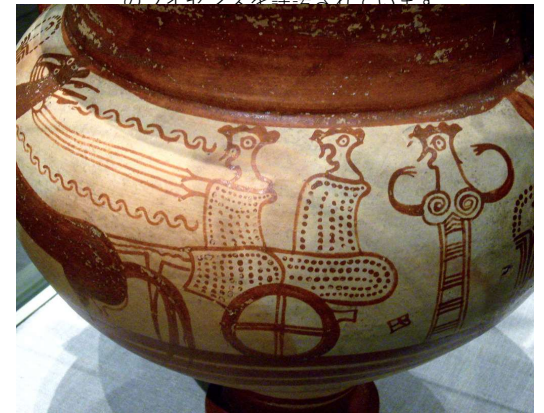
[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](#) のライセンスを許諾されています

クレタ美術とミュケナイ美術（3）

- **ミュケナイ**はBC1600ごろから歴史に名を残している。
- **堅牢な城壁を張り巡らせた城塞と王宮を兼ねる建築物**に特徴をもつ。
- クレタ文明が**アカイア人**によって滅ぼされた後、BC1400ごろに**ミュケナイ人**が**クレタ島を征服**し、それが刺激剤となってミュケナイ美術は最盛期を迎えた。
- この時期を境に**抽象化された文様**を主体とし、末期には**簡素化された人間や動物の装飾モチーフ**が用いられるようになる。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY](#) のライセンスを許諾されています

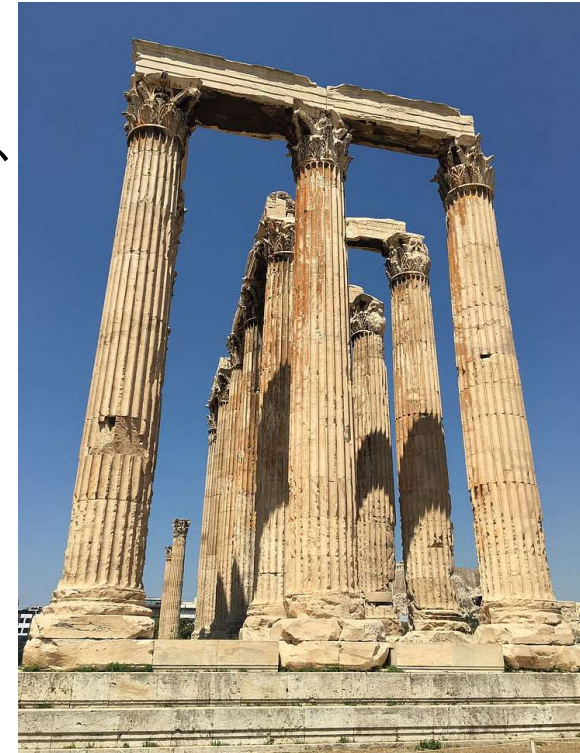


本日の内容

- ✓ 当時の情勢について：エーゲ文明
- ✓ クレタ美術とミュケナイ美術
- **当時の情勢について：古代ギリシア**
- ギリシア美術
 1. 原幾何学様式/幾何学様式
 2. アルカイック美術
 3. クラシック時代
- 当時の情勢について：ヘレニズム期
 1. ヘレニズム時代

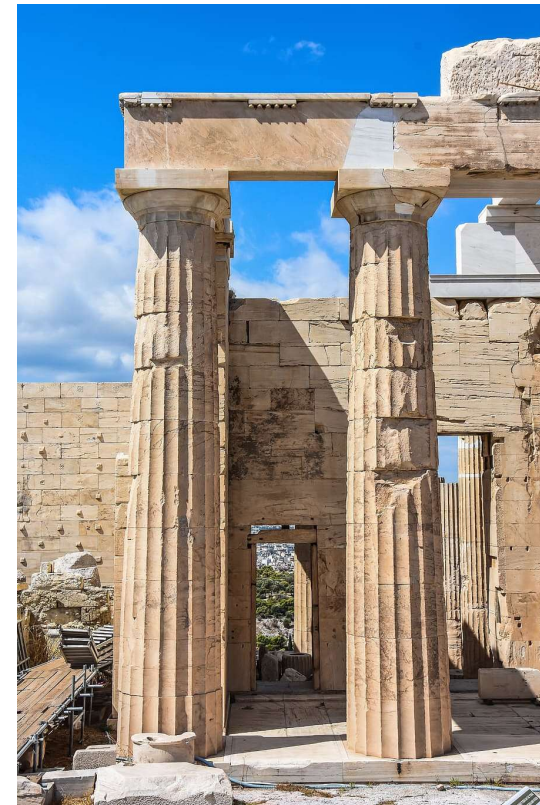
当時の情勢について：古代ギリシア(1)

- ミケーネ文明崩壊後、暗黒時代（BC1200~800）に突入。混乱の時代が続き、方言の違いからギリシア人は**アカイア人**、**アイオリス人**、**イオニア人**、**ドーリア人**などに分かれた。
- 前8世紀ごろになると有力者が軍事的・経済的要地に移住し（**集住（シノイキスモス）**）、**ポリス**（都市国家）が生まれた
- ポリスには**スパルタ**や**アテネ**も含まれる。
- アテネでは貨幣の導入によって商業が発達し、富裕な平民が現れ、その結果**民主制**が発展した。



当時の情勢について：古代ギリシア(2)

- 前6世紀後半に**アケメネス朝**がメディアを倒し、イオニア植民地を支配下に入れたが、ここで起きた反乱を**アテネ**が支援したため、アケメネス朝はギリシア本土へ遠征した。これが**ペルシア戦争**である。
- 戦争の結果ギリシアは勝利し、戦争に参加した無産市民は参政権を得た。
- アテネを中心とする200近いポリスはペルシアの再来に備えて**デロス同盟**を結成したが、同盟を支配したのはアテネだった。



当時の情勢について：古代ギリシア(3)

- アテネの繁栄に反感をもった**スパルタ**が**ペロポネソス同盟**を結成し、デロス同盟との間で**ペロポネソス戦争**が起こった。
- その結果ペルシアの支援を受けたペロポネソス同盟が勝利したが、ポリス間の抗争は続き、やがてスパルタはテーベに敗れる。
- また、アテネも**扇動政治家**の下で**衆愚政治**に陥り凋落する。
- その結果ポリスは内側から衰退した。

本日の内容

- ✓ 当時の情勢について：エーゲ文明
- ✓ クレタ美術とミュケナイ美術
- ✓ 当時の情勢について：古代ギリシア

• ギリシア美術

1. 原幾何学様式/幾何学様式

2. アルカイック美術
3. クラシック時代

• 当時の情勢について：ヘレニズム期

1. ヘレニズム時代

原幾何学様式

- 紀元前11世紀中頃から、器面を**黒い線**や**水平帯**によって区分した装飾帯に**波状線**や**コンパスによる同心円**を配した陶器が作られ始める。これは以後の幾何学様式を予兆するものとして、**原幾何学様式**と呼ばれている。
- 注意として、この特徴は末期のミュケナイ美術においても見受けられるが、一部からは継承されているとはいえ全面的に繋がりがあるわけではない。

幾何学様式時代（1）

- 幾何学的なモチーフを用いた構成的な装飾は紀元前925年からの幾何学様式時代により顕著となる。
- 幾何学的形態による装飾は弥生美術など世界各地の先史古代美術においても見られるが、ギリシア美術のそれが一線を画すのはモチーフが幾何学的であるだけでなく、その**配置、後世においても幾何学的構成が認められること（≡デザインの的に優れていること）**である。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

幾何学様式時代（2）

- 幾何学様式中期（BC850~760）から**人間や動物への関心**が高まり、厳格な幾何学的形態は弛緩してきていた。
- この状況下で**東方から動植物や空想上の動物など新しいモチーフ**がギリシアに伝わり、用いられるようになった。
- この時代を**東洋化様式**という。
- **コリントス**が積極的に取り入れ、**コリントス陶器（コリント式陶器）**を多く作った。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

幾何学的様式時代（3）

- ギリシアではそれまでテラコッタ製（素焼の粘土）や青銅製、木製の小人形しか作られていなかったが、エジプト美術の影響を受けて、紀元前7世紀から大彫刻が作られるようになる。
- ファラオ像を手本とするこの彫刻は、両足をわずかに前後させた男性裸体像< **クーロス** >である。



本日の内容

- ✓ 当時の情勢について：エーゲ文明
- ✓ クレタ美術とミュケナイ美術
- ✓ 当時の情勢について：古代ギリシア

• ギリシア美術

1. 原幾何学様式/幾何学様式

2. アルカイック美術

3. クラシック時代

• 当時の情勢について：ヘレニズム期

1. ヘレニズム時代

アルカイック美術（1）

- クーロス像は自然な骨格と筋肉を持つ人体像へと発展していった。
- 一方、オリエントに由来する女性立像<コレー>は常に着衣の姿で、衣服とひだを美しく表現することが課題であった。
- 神殿建築も発展し、それまで用いていたレンガと材木に替わって石材が使用され、内陣の周囲に列柱を配した周柱式神殿が発展していった。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

アルカイック美術（2）

- 巨大神殿の建築装飾として**浮彫**も発達した（**メトープ**、**フリーズ**）。この時期から、ギリシアの彫刻家は**静止像に動勢**を、**運動像に瞬間の静止**をいかに表現するかという課題を意識し始める。
- 静止像に動勢を与えるということはいかに生命力を表現するかということで、これに対する方策の一つが**アルカイックスマイル**である。
- そのため、体全体で生命感を表現できるようになった後世では必要性が無くなる。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](https://creativecommons.org/licenses/by-sa-nc/4.0/) のライセンスを許諾されています

アルカイック美術（3）

- 陶磁画について、**アッティカ**が**黒像式**の技法を確立。この技法では人体を**黒いシルエット**で塗り、その中に細部を刻線で描く。
- 黒像式の巨匠として**アマシスの画家**と**エクセキアス**が挙げられる。前者は**神々**を人間味あふれる姿で描き、後者は逆に**人間**を神々のごとく**崇高**に描いた。両者の世界は**神人同形**（**アンソロポモルフィズム**）に由来していて、クラシック期の美術を予告している。



アルカイック美術（4）

- 前述した二人の天才によって黒像式が探求されつくされた後、**赤像式**という新しい技法へ転換する。この技法では、**赤い地の上に人物を筆で書き、背景を黒く塗りつぶす**という方法を取る。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY](#) のライセンスを許諾されています

本日の内容

- ✓ 当時の情勢について：エーゲ文明
- ✓ クレタ美術とミュケナイ美術
- ✓ 当時の情勢について：古代ギリシア

• **ギリシア美術**

1. 原幾何学様式/幾何学様式
2. アルカイック美術

3. クラシック時代

- 当時の情勢について：ヘレニズム期

 1. ヘレニズム時代

クラシック時代（1）

- BC480~323までを**クラシック時代**といい、**ギリシア美術の黄金期**であった。出来事でいえばペルシア戦争で勝利し、アテネがギリシア世界の覇権を獲得した時期である。
- 大きな特徴として、彫刻が直立不動のものから**より自然体なもの（コントラポスト）**へ変化していくことが挙げられる。
- また、建築についても発展し、その成果が**パルテノン神殿**に結晶した。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-NC-ND](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/) のライセンスを許諾されています

クラシック時代（2）

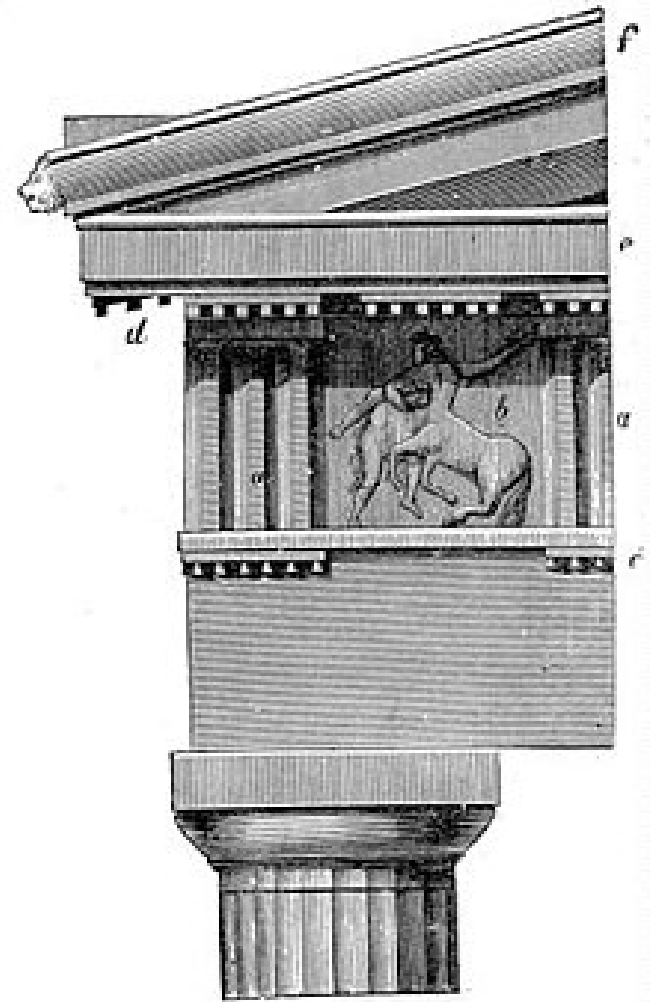
- 紀元前5世紀前半の彫刻は、直立不動の硬直した姿勢から、片方の足に体重をかけ、もう片方の足はバランスを取るだけの安らいだポーズへと発展する。
- このポーズは**コントラポスト**と呼ばれる。
- このようなクラシック様式初期段階の彫刻を**厳格様式**という。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

クラシック美術（3）

- 古代ギリシアにおいて様々な建築規格があった。
- そのなかの一つである **ドーリス**（**ドリス**、**ドーリア**）式オーダーによってパルテノン神殿は建設された。
- ドーリス式オーダーの特徴は**柱頭が簡素**なことであり、しばしば荘重と表現される。（柱頭は柱の上部の梁と接する部分）



The Doric Order in the Parthenon at Athens.

この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

クラシック美術（4）

- 参考として、古代ギリシアにおける他の主要な建築様式であるイオニア式、コリント式の柱頭を示しておく。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

イオニア式（渦巻き飾り）



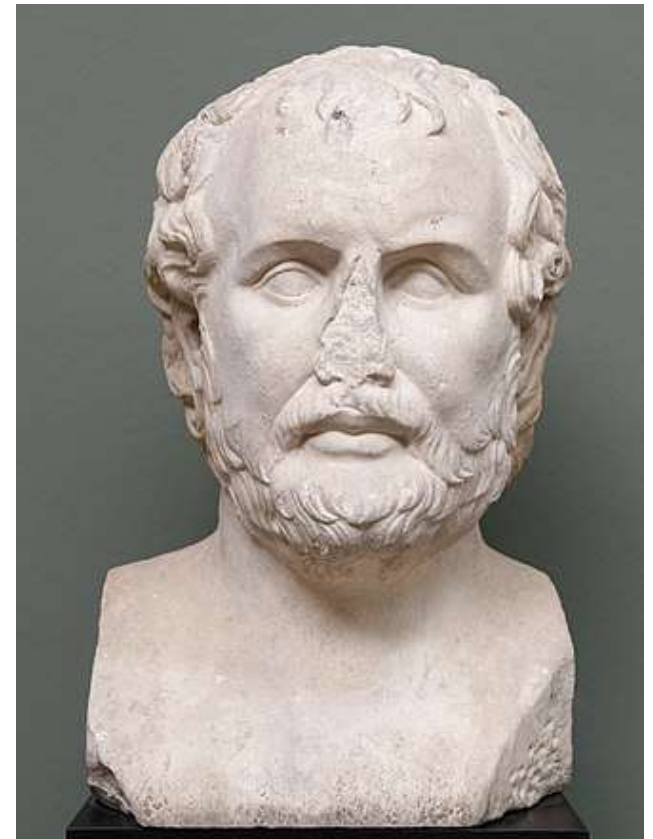
コリント式（アカンサスの葉）

本日の内容

- ✓ 当時の情勢について：エーゲ文明
- ✓ クレタ美術とミュケナイ美術
- ✓ 当時の情勢について：古代ギリシア
- ギリシア美術
 1. 原幾何学様式/幾何学様式
 2. アルカイック美術
 3. クラシック時代
- **当時の情勢について：ヘレニズム期**
 4. ヘレニズム時代

当時の情勢について：ヘレニズム期(1)

- ペロポネソス戦争後、ギリシアのポリスは衰退したが、北方の**マケドニア**は発展した。
- **フィリッポス 2 世**がBC338に**カイロネイアの戦い**でテーベ・アテネ連合軍を破り、**全ギリシアを統一**した。
- さらに**コリントス同盟**を作り、スパルタを除く全ポリスを参加させ、同盟を支配した。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

当時の情勢について：ヘレニズム期(2)

- フィリッポス 2 世の子**アレクサンドロス大王**はマケドニア・ギリシアの連合軍を率いてペルシア帝国討伐のために**東方遠征**をおこなった。
- アケメネス朝を滅ぼし、大王は東西に渡る大帝国を築いた。
- 東方遠征から帝国の滅亡まで（BC338~30）を**ヘレニズム時代**と呼ぶ。
- ギリシア文化が東方に伝わり**東西の文化が融合**し、**ヘレニズム文化**が生まれた。



当時の情勢について：ヘレニズム期(3)

- 以下はアレクサンドロス帝国の領域である。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

本日の内容

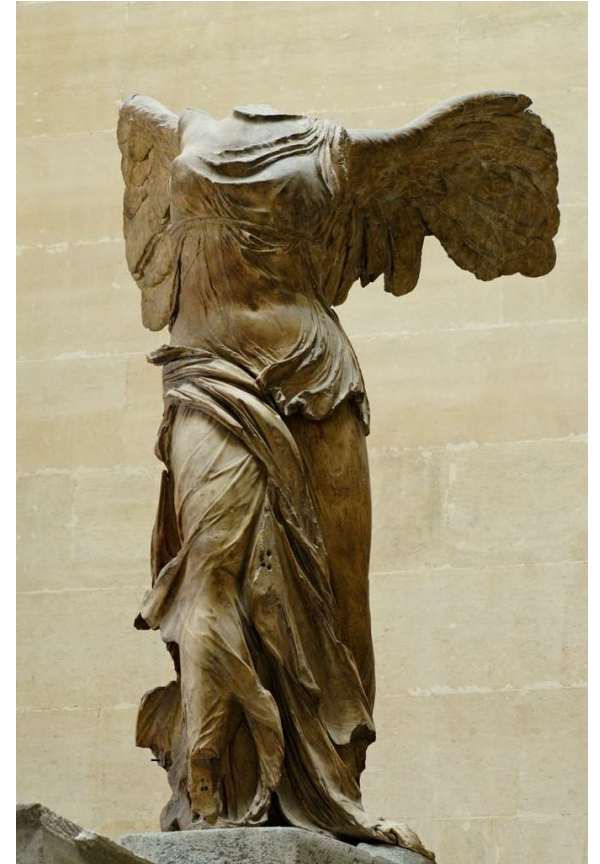
- ✓ 当時の情勢について：エーゲ文明
- ✓ クレタ美術とミュケナイ美術
- ✓ 当時の情勢について：古代ギリシア

• ギリシア美術

1. 原幾何学様式/幾何学様式
 2. アルカイック美術
 3. クラシック時代
- 当時の情勢について：ヘレニズム期
4. **ヘレニズム時代**

ヘレニズム時代（1）

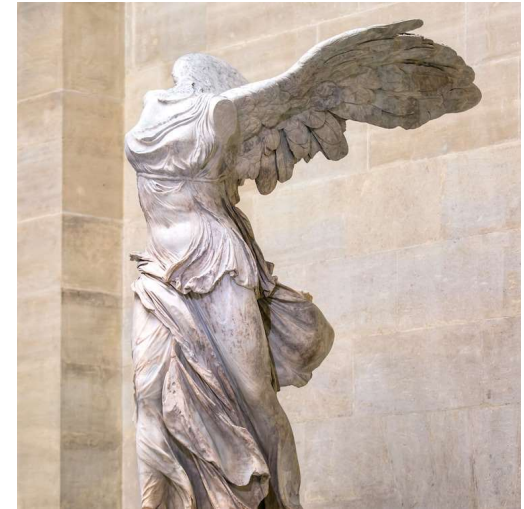
- 前述した通り、ヘレニズム期は社会的、経済的に大きな変化が起こり、それは美術にも大きな変化を与えた。
- 紀元前三世紀中頃から「**美術の産業化（大衆化）**」が顕著となる。つまり、富裕な市民が住宅に壁画や彫刻を置いたり、豪華な装身具を身に着けたりした。
- このため**古典主義美術の伝統が一時途絶えた**ものの、末期になると**古典主義復興**が起こった。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

ヘレニズム時代（2）

- ヘレニズム期の大衆美術の特徴は、**激情的で激しいパトスに満ちており、**また構成は**空間的（≡どこから見ても作品が成り立つ）**ことである。
- 代表的な作品は「**サモトラケのニケ**」「**ラオコーン像**」である。



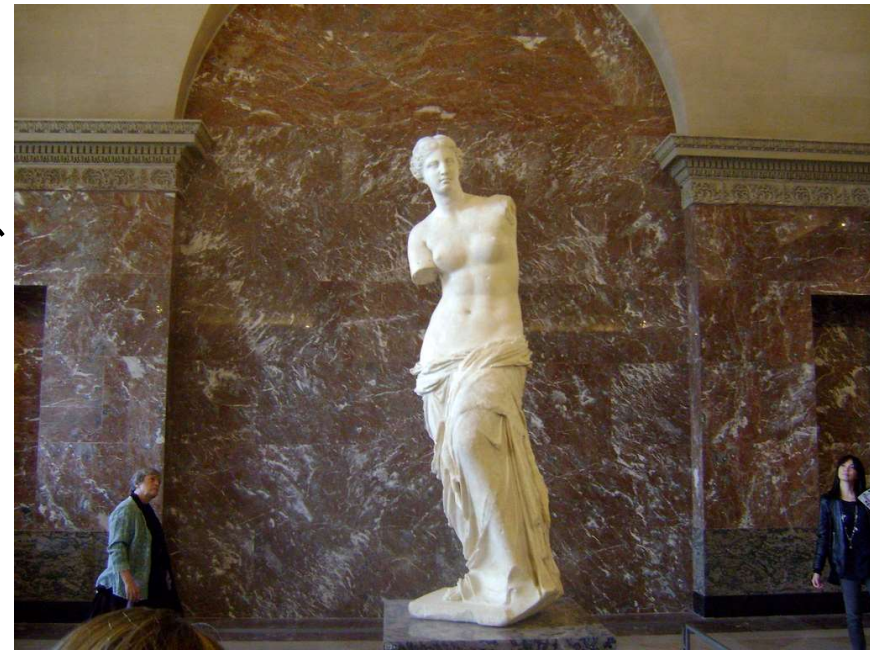
この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](#) のライセンスを許諾されています



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](#) のライセンスを許諾されています

ヘレニズム時代（3）

- 末期ヘレニズム期の美術では**古典主義復興**が起こった。
- 古典主義の特徴は、**静穏**であることと、構成が**正面的**（≡**鑑賞する方向が指定されている**）ことである。
- この運動の作品として主なものとして「**ミロのヴィーナス**」がある。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-ND](#) のライセンスを許諾されています

次回の内容（1）

- 栄華を極めたギリシアであったが、最終的にはローマ帝国に滅ぼされてしまう。ローマにギリシア文化がもたらされた当時は、ローマ美術はその模倣であったが、しかし次第にローマ固有の表現が培われていく。
- また、キリスト教が成立するのもこの時期である。
- 関連するワード
 1. コロッセオ



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

次回の内容（2）

誕生以後1500年以上にわたり東西ヨーロッパ文化の中核を担うこととなるキリスト教美術ですが、その初期の姿はどのようなものであったのでしょうか。また、中世という時代において、どのように発展していったのでしょうか。今回は中世の美術について考えていきます。

- 関連するワード：
 1. 初期キリスト教美術
 2. ビザンティン美術



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています